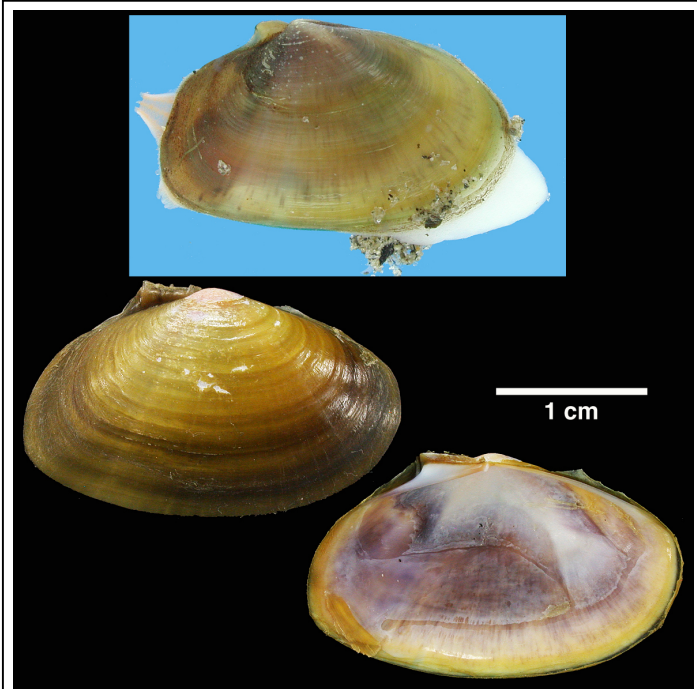


オチバガイ *Gari chinensis* (Deshayes)

【選定理由】

本種は内湾河口域の砂泥干潟に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は瀬戸内海の一部に健全な生息場所が確認されているほかは、分布全域で生息場所が減少している (和田・他, 1996)。伊勢湾の三重県側では比較的普通に死殻が打ち上げられ、健全な個体群も確認されている。県内の伊勢湾や三河湾では、死殻の確認も稀で、矢作川河口 (川瀬, 2002)、蒲郡市三谷地先人工干潟 (木村, 2005) で少数の生貝採集記録がある。現在、生息地は非常に少なく、個体数も少ない。今回も絶滅が危惧される種と評価された。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005年7月21日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 40 mm で殻は前後に長い楕円形。殻はやや薄く、殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

近年、知多市新舞子 (早瀬, 2013)、矢作川河口や蒲郡市で生息が確認されているが、生息地点数、個体数とも著しく少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸 (広東省)、海南島、台湾、フィリピン、国内では東京湾・若狭湾～九州まで分布する (福田・木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏・木村昭一, 2012. オチバ (コムラサキガイ), p. 134.in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
早瀬善正, 2013. 愛知県におけるスナガイの新産地, かきつばた, (38): 53-55.
川瀬基弘, 2002. 矢作川河口域における干潟の底生動物相. 矢作川研究, (6): 81-98.
木村昭一, 2005. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, (31): 29-31.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)